

工事説明書

[搬入・据付]

室外機一体型 ヒートポンプ空調機 オクージオ®

このたびは弊社製品をご採用いただき、まことにありがとうございます。

この工事説明書は製品の搬入・据付・試運転にあたって重要な内容を記載しておりますので、ご施工前によくお読みください。

お願い事項

- 安全に関して特に注意すべき点は「危険」、「警告」、「注意」に区分し、表記しておりますので遵守願います。
- 納入した製品の構成や、組込み機器図が綴じられております納入仕様書を、併せてご確認願います。

電気用品安全法に関する注意事項




弊社製品を一般家庭や小規模事業所（一般用電気工作物）に接続して使用しないでください。弊社製品は大規模事業所に接続する機器として設計、製作しています。産業用電気工作物に接続して使用してください。

目次




1. 安全にご施工いただくために	1
2. 製品お受取り時のお願い	4
3. 据付場所	4
4. 搬入据付	6
5. 組立	7
6. ダクト工事	8
7. ドレン配管及び気化式加湿器配管工事	9
8. 電気配線工事	10
9. 運転前の確認	14
10. 保守点検	14

1 安全にご施工いただくために







● 危害・損害の程度を表す記号の区分

 危険	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。
 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、及び物的損害のみの発生が想定される場合。但し、この場合でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。







● 危害・損害の発生事象・結果事象を表す記号の区分

	△記号は、警告・注意を促す内容がある事を告げるものです。 図の中に具体的な注意内容(左図の場合は回転体注意)が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為である事を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示したり内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合はアースを必ず接続してください)が描かれています。

⚠ 危険

<p> 強度が不十分な箇所への据付け禁止</p> <p>機器の据付けは機器質量に十分耐えうる強固な基礎に、アンカーボルト等を使用して確実に据付けてください。強度が不足している箇所への据付けや、固定が不十分な場合は、製品の転倒や落下などの重大事故の原因になります。</p>	<p> 許容荷重を超える製品の吊り上げ禁止</p> <p>機器の搬入時に、製品をクレーンなどにより吊り上げる際は製品の質量を事前に調べ、使用するクレーンなどの許容荷重を超えないことを確認してください。許容荷重を超える質量の製品を吊り上げるとクレーンの横転など、重大事故のおそれがあります。</p>
<p> 吊り上げ中の製品の下に入らない</p> <p>吊り上げ中は製品の落下・転倒の可能性があります、製品の下に入るのは大変危険です。</p>	<p> 冷媒が漏れたら換気を行い、火気を使用しない</p> <p>冷媒が漏れた場合、直ちに換気を行ってください。密閉された空間では窒息のおそれがあります。また、冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。火気の使用を禁止してください。</p>
<p> 製品に入る際には製品を停止させ、必ず本体の電源を遮断する</p> <p>製品には回転体や高温物があります。回転体が完全に停止し、高温物が冷えてから入ってください。また、電源が投入された状態では誤作動で回転体が運転し、人身事故の原因になりますので、必ず電源を遮断してから製品に入ってください。</p>	<p> 電気配線・制御配線の結線の際には、必ず本体の電源を遮断する</p> <p>電気配線や制御配線を結線する際には、必ず本体の電源を遮断した状態で行ってください。電源が投入された状態で結線を行うと、感電、火災の原因になります。</p>

⚠ 警告

<p> 工事は専門業者が実施する</p> <p>機器の据付けや組立、付帯設備工事は専門業者が実施してください。また、本工事説明書に従って確実に施工してください。据付けに不備があると、水漏れ、感電、火災の原因になります。</p>	<p> 電気工事は関連法律を守って正しく施工する</p> <p>電気工事は電気工事士の資格がある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び本工事説明書に従って施工してください。電源回路容量不足や施工に不備があると、感電・火災の原因になります。</p>
<p> 所定の電線で配線し、接続部に力を掛けない</p> <p>配線は所定の電線を使用して確実に接続し、端子接続部に電線の外力や張力が作用しないように施工してください。接続部の損傷や過熱、火災の原因になります。</p>	<p> 仕様に合った電源電圧、周波数で使用する</p> <p>機器の仕様に適合した電圧、周波数以外で使用しないでください。仕様から外れた電源電圧、周波数で使用すると、火災、感電の原因になります。</p>
<p> 漏電遮断器（電流動作形）を設置する</p> <p>誤作動を防止するため、高調波対策の漏電遮断器を使用してください。感電・火災事故防止のため、漏電遮断器の設置が義務付けられています。また、本製品はインバータを内蔵しています。</p>	<p> 異常を確認したら、すぐに運転を停止する</p> <p>運転音や振動に異常を確認した場合は、すぐに運転を停止してください。異常のまま運転を継続すると、故障、感電、火災の原因になります。また、異常への対処は専門の工事業者や弊社指定のサービス会社にご相談ください。</p>

⚠ 注意

<p>❗ 納入仕様書を併せて確認する 納入仕様書には、納入した製品の構成などが記載されています。 必ず本工事説明書と納入仕様書を併せてご確認ください、適切に施工ください。</p>	<p>⚡ アース工事を適切に施工する アースを適切に施工してください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線には接続しないでください。アースが不十分な場合は感電の原因になります。</p>
<p>❗ 加湿器には水質基準に適合した飲料水を使用する 気化式加湿器に使用する供給水は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水を使用してください。水質が不適切な場合は、スケールが発生し、飛散して室内に流入する場合があります。</p>	<p>🚫 製品の上に乗らない 落下、転倒によるケガのおそれがあります。また、機器の破損の原因になります。</p>
<p>🚫 爆発性ガス、引火性ガスのある環境への据付禁止 引火、爆発のおそれがあります。</p>	<p>❗ 特殊環境には使用しない 油分、塩分、湿気、塵埃の多い場所や腐食性ガスなどが発生している場所、電磁ノイズの影響を受ける場所に据付けしないでください。性能低下や機器の破損の原因になります。</p>
<p>🚫 製品のアルミフィン、ファンにさわらない ケガの原因になります。</p>	<p>🚫 配管や配線の上に乗ったり、無理な力を加えない 配管や配線の上に乗ったり、無理な力を加えると、変形・破損が生じ、動作不良や配管内の冷媒が漏えいする原因になります。</p>

● フロン排出抑制法に関する注意事項


本製品は「フロン排出抑制法」に定める「第一種特定製品」です。

● JRA GL-14 「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく冷媒漏えい点検のお願い

製品の特性を維持していただくために、また、冷媒フロン類を適切に管理していただくために、設置時及び設置後の定期的な冷媒漏えい点検をお願いします。漏えい点検は、漏えい点検資格者が実施し、「漏えい点検記録簿」にその結果と、廃棄するまでのすべての点検工事が記録されますので、お客様に内容の確認とその管理（管理委託を含む）をお願い致します。詳細につきましては、下記サイトをご覧ください。

- ・ JRA GL-14 「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」 : <http://jraia.or.jp>
- ・ フロン漏えい点検制度 : <http://jarac.or.jp>

フロンについて この表示はエアコンに温暖化ガス（フロン類）が封入されていることをご理解いただくための表示です。

<h3>R 4 1 0 A 冷媒</h3>	<p>本機にはGWP（地球温暖化係数）が2090のフロン類が使用されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄する場合にはフロンの回収が必要です。</p>	
-----------------------	--	---

2 製品お受取り時のお願い

傷、打痕など、異常が無いことを必ずご確認ください

- ・製品は原則“車上引き渡し”となります。車上でのお受取りの際に製品に傷や打痕などの異常がないことを必ずご確認ください。お受取り後のご指摘には対応できかねますのでご注意ください。

お受取り時に付属部品が揃っていることをご確認ください

- ・付属部品（オプション品含む）をお受取り時にご確認ください。
- ・付属部品は組立作業が終わるまで保管してください。また、紛失しないように管理をお願いします。

3 据付場所

据付条件

- ・ユニットの重さ・振動に耐え、水平に据え付けられる安全な場所に据付けてください。
- ・通風を十分に確保し、安全に保守点検を行うための所要スペースを確保してください。（所要スペースについては5ページ 所要スペース例を参照してください）
- ・製品の周囲空気温度条件は以下の範囲で運用してください。

運転モード	空気温度条件
冷房	13～43℃ DB、6～35℃ WB、10%RH以上
暖房	-5～22℃ DB

- ・運転音や排風で近隣に迷惑のかからない場所に据付けてください。
- ・他の機械からの振動や熱の影響が無い場所に据付けてください。

塩害地域への対応

- ・海水飛沫や潮風の影響を受ける場所に据え付ける場合は、次のような対策を実施してください。
 1. 建物の陰など、潮風が直接当たらない場所に設置する。
 2. 防風壁などを設置する。
- ・必ず製品を水平に保ち、水はけの良い場所に据え付けるなど、排水性を確保してください。また、外装パネルに付着した塩分等が、雨水によって十分に洗い流されるようにしてください。水の滞留により防錆性能が劣化します。
- ・据付時に製品に傷がついた場合は、補修用塗料を塗布するなど、必ず補修を行ってください。外装パネルの傷や、架台の塗装剥離を放置すると、発錆の原因になります。

下記のような場所へは据付けないでください

- ・鉱物油がたち込めたり、調理場など、油の飛散や蒸気の多い場所。樹脂部品が劣化し、部品の落下や水漏れの原因になることがあります。
- ・亜硫酸ガスなど腐食性ガスの発生する場所。銅管及び銅管ろう付け部が腐食し、冷媒漏れの原因になることがあります。
- ・電磁波を発生する機械がある場所。制御系統に異常を生じ、正常な運転ができない原因になることがあります。
- ・可燃性ガスの漏れるおそれのある場所、カーボン繊維や引火性粉じんの浮遊する場所及びシンナー、ガソリンなど揮発性引火物を取り扱う場所。万が一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- ・小動物のすみかになるような場所。侵入した小動物が内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。

所要スペース例

- ・ 図 3-1に示す例は外気温度35℃での冷房運転を基準としています。
- ・ 複数台の製品を並べて設置する場合は、図 3-2に示す例を参考に所要スペースを確保してください。
- ・ 室外ユニットに防雪フード（オプション）を取付ける場合は、防雪フードの取付けスペースを確保してください。
- ・ 製品上部に障害物がある場合（屋内設置）など、所要スペース例が施工条件に当てはまらない場合は、弊社にお問い合わせください。

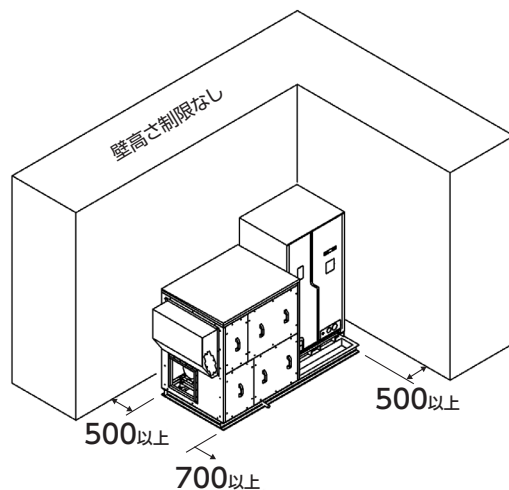


図3-1 所要スペース例（単独設置）

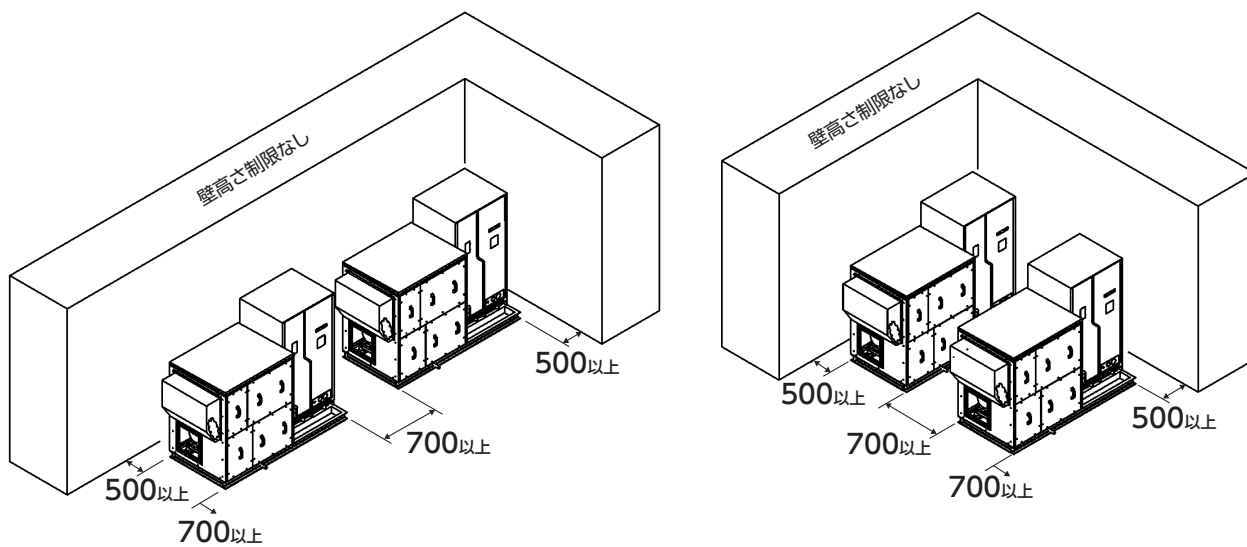


図 3-2 所要スペース例（複数設置）

4 搬入据付

搬入前にご確認ください

- ・搬入時、搬入ラベルで製品情報（系統名、製品質量など）を確認してください。
- ・搬入の際、製品を傾けないようにしてください。配管が変形する場合や、機内に封入されている油が溜まりこみ、運転時に圧縮機を損傷するおそれがあります。
- ・ワイヤ吊りまたは台車で製品の搬入を行ってください。
- ・吊り下げ、吊り上げ時には十分ご注意ください。
- ・製品にワイヤロープまたはナイロンスリングを掛ける場合、ロープがケーシングなどに接触する部分に当て板を添えてください。（図4-1参照）
- ・吊り上げ時、シャックルまたは外れ防止機能のフックをご使用ください。
- ・搬入時、吊り上げられた製品の下には入らないでください。製品が落下し、下敷きになるおそれがあります。
- ・仮置きなどで製品の下に角材を敷く場合は、架台下両側とその中間に数本の角材を敷いてください。

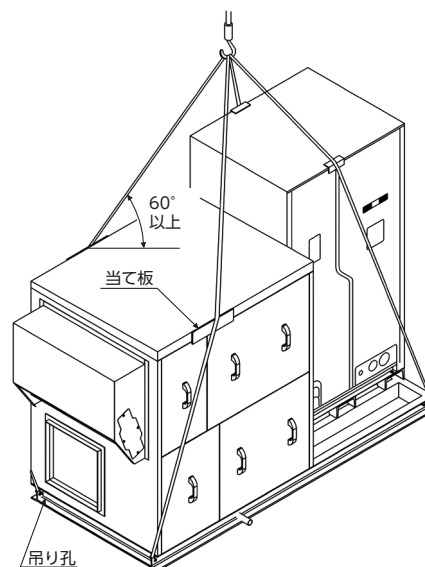


図4-1 吊り上げ例

搬送時の損傷にご注意ください

- ・外装パネルに傷が付かないように、できるだけ据付位置まで梱包のまま搬入・搬送してください。
- ・製品の天面に乗らないでください。破損や損傷のおそれがあります。
- ・吊り孔以外（外装パネル、冷媒配管などの突起物）には絶対に荷重を掛けないでください。機器の変形による動作不良や損傷の原因になります。特に配管は変形や冷媒漏れのおそれがありますのでご注意ください。

製品出荷梱包は雨天対応ではありません

- ・製品出荷梱包は雨天対応ではありませんので、雨天での搬入時は製品内部に雨水が入らないよう、養生をしてください。万が一製品内に水が入った場合、放置すると短期に錆やカビが発生する原因になりますので、直ちに拭き取りと乾燥作業が必要です。また、モータ、制御盤など、電気部品に滴下しますと機器が損傷するおそれがあります。
- ・出荷梱包をしたまま長時間放置すると、外装に黒錆が発生する場合があります。

据付時にご注意ください

- ・製品は必ず水平で平坦な基礎上に、架台全体を支えるように据付け願います。不適切な据付けは外装パネルの目地ズレや振動、リーク、結露などの原因になります。
- ・アンカーボルトは確実に施工してください。アンカーボルトを施工しないと、暴風、地震などで二次災害のおそれがあります。
- ・アンカーボルトの種類、サイズ、重心位置は組込機器により異なりますので、納入仕様書にてご確認ください。
- ・アンカーボルトに対し、孔径が大きい場合は十分な厚みと大きさのワッシャなどを使用して施工してください。
- ・搬入据付時、架台部、吊り孔部などの塗装が剥離した場合は速やかに補修願います。発錆の原因になります。
- ・基礎の周囲に排水溝を設け、製品の周囲に水が溜まらないように確実に排水してください。
- ・製品内に第三者が容易に触れることができないよう、措置を講じてください。製品内は回転体や高温物、高電圧機器があり危険です。

・季節風などの影響を受ける場所に据え付ける場合は、次のような季節風対策を実施してください。

1. 建物の陰など、季節風が直接当たらない場所に設置する。
2. 防風壁などを設置する。

室外ユニット吸込口・吹出口に真向から風が吹き込むと、室外ユニットの運転が阻害されます。

・積雪の多い場所に据え付ける場合は、次のような積雪対策を実施してください。

1. 雪が吹き溜まる場所を避けて設置する。または雪が吹き付ける向きに室外ユニット吸込口が向かないよう設置する。
2. 雪に吸込面が埋まらないよう室外ユニット底板が雪面以上になるように基礎を高くする。（基礎への積雪がないよう幅寸法にもご注意ください）
3. 室外ユニットのドレン排水経路を確保する。
4. 防雪フード（オプション）を取り付ける。

室外ユニットの吸込口が雪で塞がれると、室外ユニットの運転が阻害されます。

製品の据付例

・製品振動を基礎に伝え難くする対策が必要な場合や、室外機から直接放流されるドレン排水に配慮が必要な場合は図4-2を参考にゴムパッドを敷いてください。

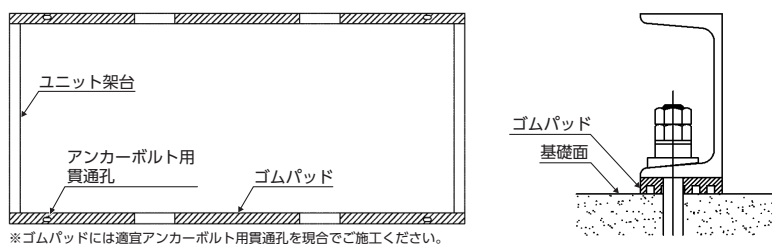


図4-2 ゴムパッド据付図（参考）

5 組立

製品の天面には乗らないでください

- ・天面に乗ったり、重量物を置くと、天板の面材が断熱材から剥離し、時間経過とともに天板がふくれ、変形する場合があります。（外装パネル表面のふくれや変形は、断熱や遮音に影響を及ぼすことはありません）
- ・フード、外装パネル、配管、計器類も同様に、乗ったり、重量物を置くと破損やリークの原因になります。

製品に入る際はご注意ください

- ・コイルのアルミフィン面に触れるとケガをするおそれがありますので、注意してください。
- ・底板塗装やドレンパンを傷つけないよう、養生を行ってから入ってください。
- ・機内組込品に荷重をかけたりぶつけたりして、破損しないようご注意ください。

基礎への据付後に確認をしてください

- ・据付後、運転開始までに時間があらず外装パネルや室外ユニットが傷つくおそれがある場合は、養生処置を行ってください。
- ・出荷時保護用の“木片”は振れ止めストッパボルトを緩めてから外してください。（図5-1参照）木片を外さないと防振が機能せず、異常振動の原因となります。
- ・緩み止め六角ナットは防振を効かすため、1～3mm程度の隙間を確認、調整してください。（図5-1参照）
- ・ファン用スラスト防止ストッパのアジャスターボルトを必ず調整してください。（図5-2参照）

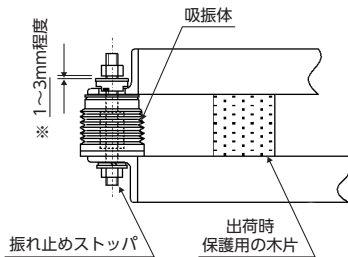


図5-1 吸振体と振れ止めストッパボルト

振れ止めストッパボルト調整方法

- ① 振れ止めストッパボルトの、六角ナットを緩めてください。
- ② 出荷時保護用の木片を、取り外してください。
- ③ 図中※印の隙間を確認し、必要に応じて調整してください。

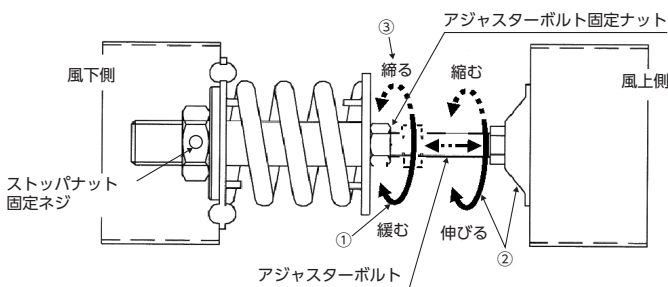


図5-2 スラスト防止ストッパのアジャスターボルト調整

アジャスターボルト調整方法

- ① アジャスターボルトの固定ナットを、左回しにして緩めてください。
- ② アジャスターボルトを、左回しにして風上側の当て板に軽く当てるまで伸ばしてください。
- ③ アジャスターボルトの固定ナットを、右回しにして固定してください。

6 ダクト工事

ダクト開口部より異物が入らないようご注意ください

- ・特にファン吐出開口部から異物が入らないようご注意ください。異物が入ると、ファンの故障原因になります。
- ・開口部に鋼板や塞ぎ板が付いている場合は、取り外してダクトを施工ください。
- ・ダクト自重を直接製品に持たせたり、ダクトを無理に引っ張り、接続しないでください。変形やリークの原因になりますので、ご注意ください。
- ・振動伝搬の防止や製品への荷重防止に、必要に応じダクト接続部にキャンバス継手を使用してください。
- ・防振で受けられた製品にダクトを接続する場合は、必ずキャンバスで接続してください。
- ・施工後は機器内部の清掃をお願いします。ダクト施工時の金属片または金属加工粉が機器に付着すると発錆の原因になります。

ダクト形状及び振り回しは偏流のないよう施工願います

- ・ファン吐出口に接続するダクト位置は、ランナ径（呼び径）の1.5倍以上の距離を確保してください。（図6-1参照）吐出ダクト・プレナムチャンバは空気の流が偏らないように施工してください。ダクトの取り出しが偏芯していると、偏流が生じやすいため、必要に応じて整流板などをご施工願います。
- ・複数台の空調機を同一ダクトで接続する場合は各系統のダクトに必ず逆流防止用ダンパ（モータダンパ、チャッキダンパなど）を取り付けてください。空気の逆流により機内結露・凝縮が発生し機器異常につながるおそれがあります。

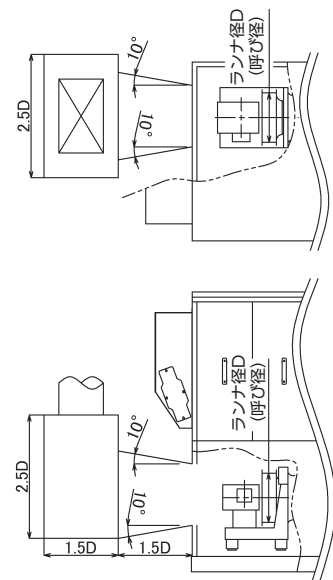


図6-1 ランナ呼び径とダクト形状

ファン呼称	ファンサイズ	ランナ径D（呼び径）
プラグファン	PS320	320mm
	PF-16D-50	406mm（16×25.4）

ファンサイズは納入仕様書にてご確認ください。

7 ドレン配管及び気化式加湿器配管工事

配管施工時にご注意ください

- ・軟銅管を固定している養生用テープなどは必ず外してから施工してください。
- ・接続の際は、機器を無理に引っ張ったり、押し付けたりしないでください。
- ・製品全体を防振装置で受けている場合は、配管接続部をフレキなどで施工してください。
- ・寒冷地では配管内の水が凍結しないように凍結防止対策を施してください。

気化式加湿器配管工事 (図7-1参照)

- ・軟銅管は継手部付近から急に曲げないでください。
- ・軟銅管は奥までまっすぐ差し込んでください。
- ・リングジョイント付属の場合は、リングナットの締付トルクは15N・m程度にしてください。
- ・公共の水道管から直接給水することは、水道法によって規制されています。
- ・給水管には必ず給水サービス弁 (別途ご用意) を取付けてください。

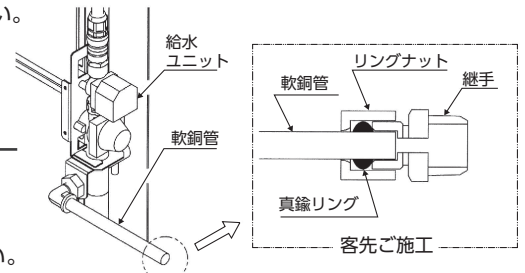


図7-1 気化式加湿器配管施工

ドレン配管工事

- ・コイル室のドレン排水口へ配管を接続する際は、ドレン排水口に無理な力が掛からないようにしてください。
- ・排水管露出部は保温してください。
- ・ドレン排水口の水封トラップの高さは最小限、ファンの全静圧分設けてください。製品停止時、機内にドレン排水が滞留しないようトラップの高さに注意してください。(図7-2参照)
- ・機内圧力に応じたトラップを使用してください。
- ・ドレン排水管の集合接続など、管内の圧力によって排水が逆流するおそれがある施工を行わないでください。ドレン排水管には排水口それぞれに封水トラップを別々に配管してください。(図7-2参照)
- ・ドレン排水管の排水勾配は、1/100以上とし、逆勾配にならないように施工してください。
- ・配管接続後に、ドレン排水が滞留なく排水されていることを必ず確認してください。
- ・除霜運転時には室外ユニットからもドレン水が流出します。必要に応じて排水溝を設置するなどの措置を講じてください。

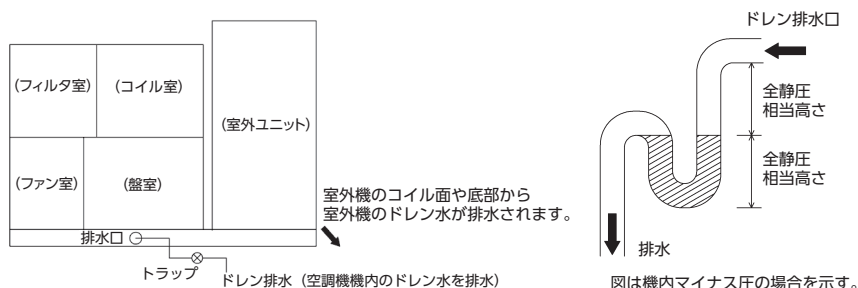


図7-2 ドレン配管施工及び水封トラップ高さ

8 電気配線工事

電気配線は、電気取扱者及び電気工事士の資格が必要です

配線は間違えないで、しっかりと締めてください

- ・電気配線は所定の電線（納入仕様書参照）を使用してください。また、端子が緩まないように確実に締結し、端子接続部に外力が作用しないようにご施工願います。過熱や焼損のおそれがあります。
- ・誤結線のないように十分注意してください。誤結線の状態でも運転しますとモータなどの焼損のおそれがあります。
- ・電気部品は「内線規程」などに基づいてアースを施工してください。感電などの事故原因になります。
- ・アース線は、ガス管－水道管－避雷針－電話のアースに接続しないでください。
ガス管：ガス漏れ時に爆発－引火の危険性があります。
水道管：硬質ビニル管が使用されている場合、アースの効果がありません。
避雷針や電話のアース：落雷時にアース電位が異常上昇する危険性があります。
- ・本機はインバータ装置を有しております。他機器への影響を与えるノイズの発生を低減させるため、また、漏洩電流によって製品外郭に帯電する電圧を放出させるため、必ずアース工事をしてください。
- ・力率改善用進相コンデンサは絶対に取り付けしないでください。コンデンサの異常過熱事故の原因になります。
- ・地絡保護専用の漏電遮断器を使用する場合は、必ずヒューズ付負荷開閉器または配線用遮断器と組み合わせて使用してください。その場合、漏電遮断器の定格電流は、配線用遮断器の定格電流と同等のものを使用してください。
- ・電源は必ず正相で接続してください。本機は逆相保護回路を搭載しています。逆相保護回路作動時は、電源配線三相のうち二相を入れ換えてください。

配線の引込みについて

- ・電源配線とアース線は室外ユニットの前面の配線ノック穴の配線引込口から引き込んでください。（図8-1参照）
- ・配線引込口の電源配線・アース線用ノック穴は左側がφ65、右側がφ80です。（図8-2参照）電源配線・アース線サイズに対し、必要な電線管サイズを内線規程JEAC8001で確認し、適合するノック穴を使用してください。
- ・ノック穴はハンマーなどで叩いて開けてください。
- ・ノック穴打ち抜き後は、ノック穴のバリ（図8-2参照）を取り除き、防錆のために補修用塗料をエッジ及び周囲の端面に塗布することをお勧めします。
- ・ノック穴に電線を通すときは電線がエッジ部で傷つかないように電線管・ブッシングなどで保護してください。
- ・小動物の侵入対策として、すき間（図8-2 斜線部）を閉鎖材・パテなど（別途ご用意）で塞いでください。

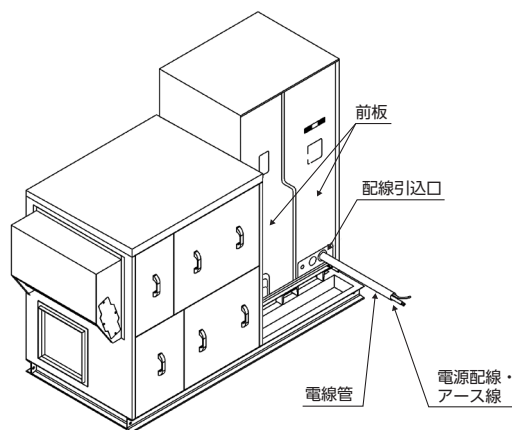


図8-1 電源配線の引込口

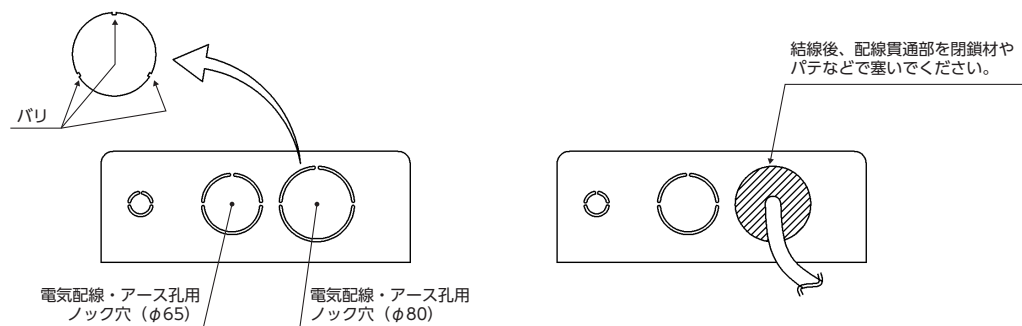


図8-2 室外ユニットの配線引込口 ノック穴

電源配線・アース線の接続

- ・電源配線は必ず電源端子台に接続し、付属のクランプ材を用いて図8-3の要領で固定してください。
- ・アース線は端子部に外力が加わらないよう付属のクランプ材を用いて図8-3の要領で固定または電源配線に結束してください。

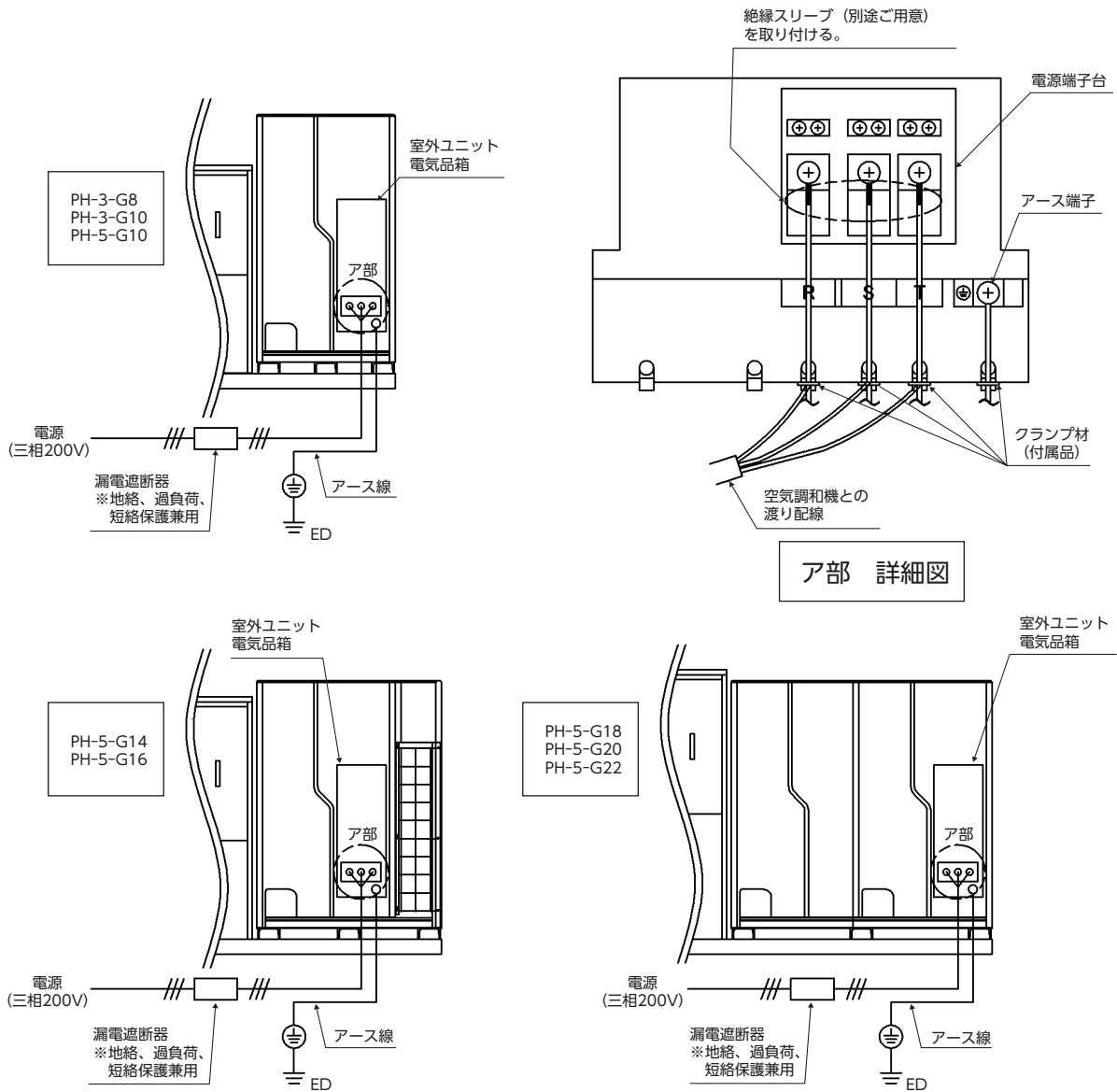


図8-3 電源配線、アース線の室外ユニットへのクランプ固定要領

- ・必ず丸形圧縮端子（別途ご用意）を使用して接続してください。また圧縮部は絶縁スリーブ（別途ご用意）を取り付けるなどして、絶縁処理を行ってください。（図8-4参照）
- ・配線は所定の電線を使用して確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定してください。
- ・アース線は必ずカップ座金の切欠き部から出し、他の配線をはさみ込まないよう配線してください。（図8-5参照）アース線の接触が不十分な場合、アースの効果なくなるおそれがあります。
- ・端子ねじは適切なサイズのドライバーを使用して締め付けてください。不適切なサイズのドライバーはねじ頭部を傷め、適正な締め付けができません。
- ・端子ねじを締め付けすぎるとねじを破損するおそれがあります。電源端子ねじ、アース端子ねじの締め付トルクは表8-1を参照してください。

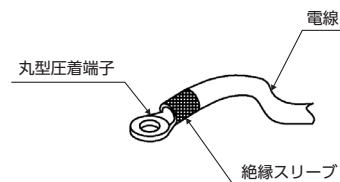


図8-4 電源配線の圧着端子の説明図

表8-1 端子ねじの締め付トルク

ねじの種類	締め付トルク [N・m]
電源端子ねじ[M8]	6.4±0.9
アース端子ねじ[M8]	10.7±1.0

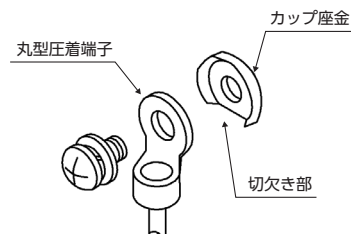


図8-5 アース線の接続説明図

- ・より線は、はんだ仕上げをして使用しないでください。
- ・本製品は納品時に室外ユニットと本体を渡り配線している状態で納品しています。電源配線とこの渡り配線を1個の端子に接続する際は、圧着端子を背中合わせにして配線してください。その際、線径が細い渡り配線を上にして配線し、2本の配線を同時に付属のクランプ材で樹脂製止金に固定してください。（図8-6参照）

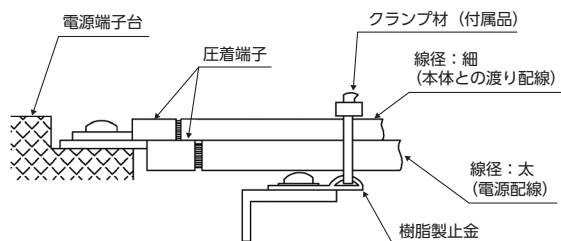


図8-6 電源端子台への電源配線と渡り配線の固定要領

室外ユニット内の配線経路

- ・図8-7を参考に配線してください。電気工事終了後、電気品箱内の各電気部品のコネクタ抜けや端子台のねじ緩みがないことを確認してください。

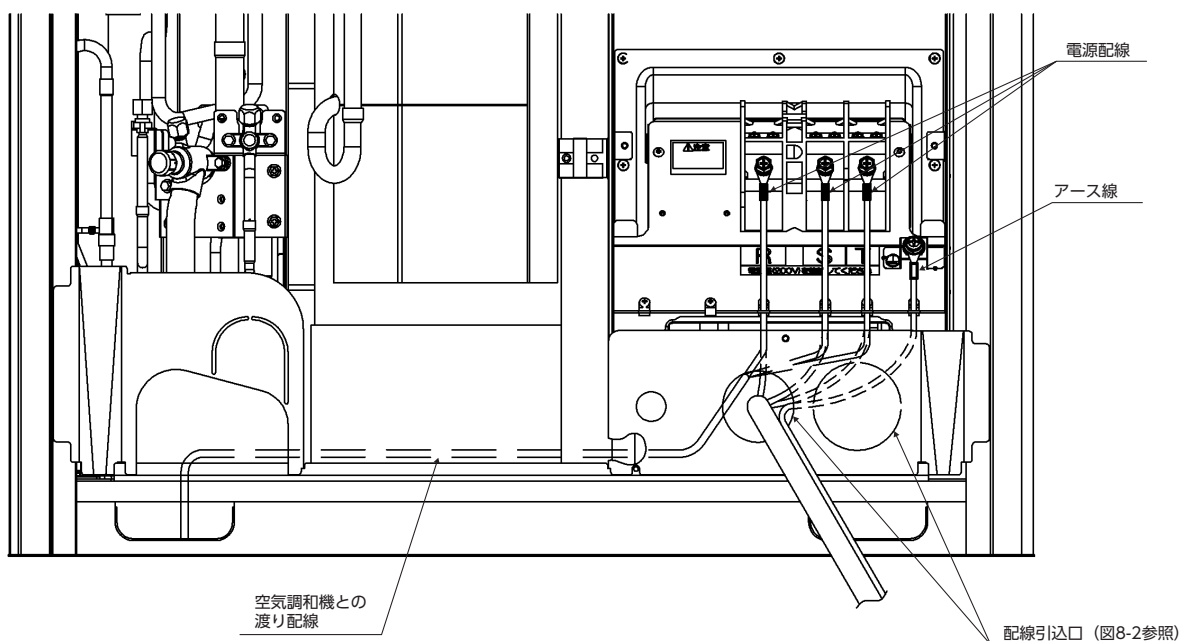


図8-7 室外ユニット内部の配線経路

制御配線（ワイヤードリモコン・外部入出力など）の接続

- ・盤室外装パネルを外したあと、制御配線を制御配線引込口から引き込んでください。（図8-8参照）
- ・制御配線引込口から盤室内に引き込んだ制御配線を端子台（TB2）に接続してください。
- ・制御盤に制御配線を接続後、端子台のねじの緩みがないことを確認してください。
- ・ワイヤードリモコン、湿度調節器の据付は機器に同梱の据付説明書を参照の上、行ってください。
- ・盤室外装パネルを製品に外装パネル固定ビスで固定してください。
- ・外装パネル固定ビスを電気部品や電線管ブラケットなどの固定に使用しないでください。（共締め不可）
リークや結露、漏水の原因となります。
- ・制御盤への配線接続後、制御配線引込口より機内へ空気の流通が無いように、閉鎖材・パテなどで塞いでください。

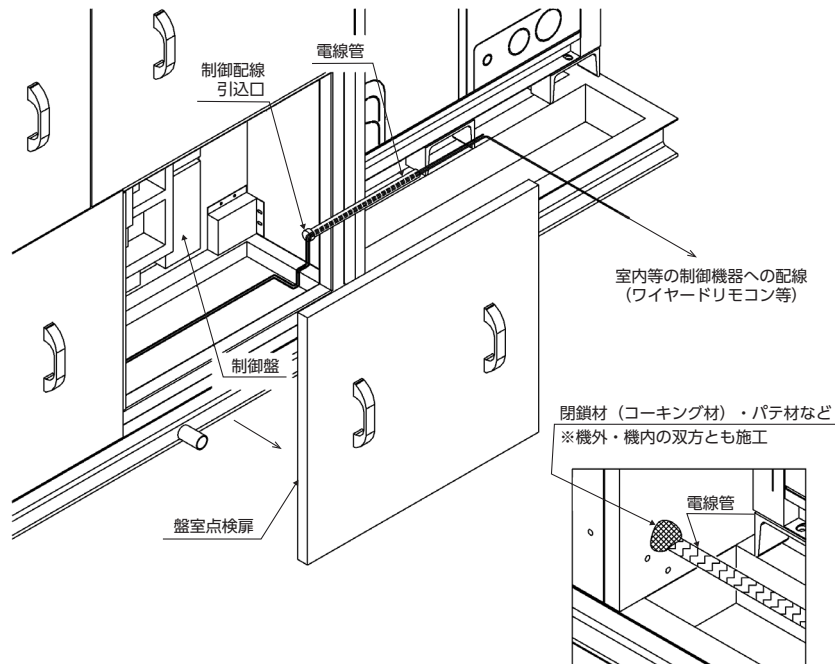


図8-8 盤室外装パネル、盤室への制御配線の引き込み

ワイヤードリモコンの据付

- ・ワイヤードリモコンで本製品の操作を行う場合は、ワイヤードリモコンを室内などに据付けてください。
- ・配線作業時は製品の電源を遮断した状態で行ってください。
- ・他機器の発熱などの影響を受けない箇所に設置してください。ワイヤードリモコン内にはサーミスタが組み込まれており、温度制御に影響するおそれがあります。（図8-9参照）
- ・据付要領や据付箇所に関する注意事項についてはワイヤードリモコンに同梱の据付説明書をご参照ください。

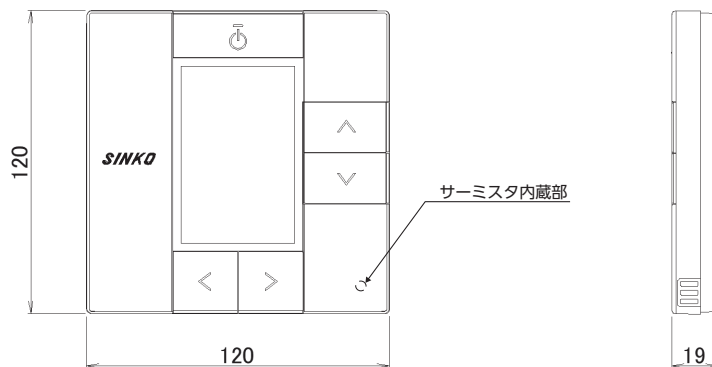


図8-9 ワイヤードリモコン

9 運転前の確認

本製品は弊社出荷前検査時に試運転調整を行っているため、室外ユニットの試運転作業は不要です

製品の通電及び運転前に以下の項目について確認してください

1. 製品が基礎にアンカーボルトで固定されているか。
2. 室外ユニット端子台への動力線の接続及びアース端子へのアース線が正しく接続されているか。
3. 動力制御盤への制御線が正しく接続されているか。
4. 本体及び室外ユニットの配線貫通部が閉鎖材・パテなど（別途ご用意）で塞がれているか。
5. フィルタ室、コイル室、ファン室にゴミや異物が混入していないか。
6. エアフィルタが正しく取り付けられているか。
7. ファンの防振装置の出荷時保護用の木片及び圧縮機の搬送金具が撤去され、防振が機能しているか。
8. 気化式加湿器の配管各接続部から水漏れがないことを確認の上、給水配管のフラッシングを行っているか。（フラッシング後は、加湿器下部からドレン水が流れ出ることも確認ください）
9. 気化式加湿器の給水確認後に給水ストレーナを清掃しているか。
10. ドレンパンの汚れ、排水口にゴミや異物がないか。
11. 本体及び室外ユニットからのドレン水が滞りなく排水されるか。
12. 運転時のドレントラップの封水は切れていないか。（初期運転時は必ずドレントラップに注水を行ってください）
13. 外装パネルが閉じていること、並びに外装パネル固定ビスに緩みがないこと。
14. 運転をする際は製品への通電後、6時間以上経過しているか。

送風機の運転確認を行う

- ・内部に人がいないことを確認した後、必ず点検口を閉じて運転してください。人身事故や異常運転（ファンの過電流、コイルの過冷過熱など）のおそれがあります。
- ・電源投入後、室外ユニットの通信イニシャライズに最大12分かかります。点検などで電源を遮断した場合、電源再投入から12分間は製品を運転しないでください。通信未確立のエラーが発生するおそれがあります。（エラーが発生した場合は、一度電源を遮断し、再度電源を投入してください）
- ・吐出ダンパを絞った状態から徐々に開いて規定風量に調整してください。
- ・インバータでファン回転数を可変する場合、過負荷運転にならないように調整してください。
- ・コイルの通過風速が0.6m/s以上となる風量を確保してください。
- ・インバータの下限運転周波数設定値は15Hzとしています。モータの過熱・焼損のおそれがあるため、下げないでください。
- ・ダンパを過度に絞り込んだり、ダクトが詰まった状態で運転しないでください。異常な音や振動、ファンやケーシングの破損原因になります。

10 保守点検

- ・製品を安心して長くご使用いただくためには、定期的なメンテナンスが重要です。
- ・製品の取扱説明書をお読みの上、ケーシング並びに各構成部品について、保守・点検を定期的 to 実施してください。
- ・製品を長期間使用されない場合の保管方法は、製品の取扱説明書をご参照ください。
- ・保管状態によっては、製品の寿命に影響を与えることがありますのでご注意ください。

保守・点検・修理のご用命は

新晃アトモス株式会社

東京本部: 東京都江東区新大橋1丁目11番4号 〒135-0007 TEL(03)5638-3800
神奈川支社:
(秦野営業所) 神奈川県秦野市西大竹124番5号 〒257-0012 TEL(0463)84-5811
東北支社: 仙台市青葉区米ヶ袋1丁目3番43号 〒980-0813 TEL(022)216-2770
札幌営業所: 札幌市北区北十条西3丁目9番2号 〒001-0010 TEL(011)757-5383
世田谷営業所: 東京都世田谷区新町2丁目27番4号 〒154-0014 TEL(03)5450-6401
名古屋営業所: 名古屋市中区錦3丁目11番33号 〒460-0003 TEL(052)209-9941

大阪支社: 大阪府寝屋川市宇谷町11番13号 〒572-0856 TEL(072)811-3160
九州支社:
(沖縄営業所) 沖縄県那覇市山下町5番21号 〒900-0027 TEL(098)840-1130
大宮営業所: さいたま市大宮区仲町2丁目75番地 〒330-0845 TEL(048)658-5121
千葉営業所: 千葉市中央区新町1番地17号 〒260-0028 TEL(043)204-2115
福岡営業所: 福岡市博多区冷泉町5番35号 〒812-0039 TEL(092)291-4332

www.sinkoatmos.co.jp

新晃工業株式会社

本社: 大阪市北区南森町1丁目4番5号 〒530-0054 TEL(06)6367-1811
東京本社: 東京都中央区日本橋浜町2丁目57番7号 〒103-0007 TEL(03)5640-4159
神奈川工場: 神奈川県秦野市菩提160番地の1 〒259-1302 TEL(0463)75-2111
岡山工場: 岡山県津山市草加部1458番地の4 〒708-1117 TEL(0868)29-3141
東京支社: 東京都中央区日本橋浜町2丁目57番7号 〒103-0007 TEL(03)5640-4155
大阪支社: 大阪市北区南森町1丁目4番5号 〒530-0054 TEL(06)6367-1801

名古屋支社: 名古屋市中村区名駅南1丁目24番30号 〒450-0003 TEL(052)581-8661
札幌営業所: 札幌市北区北十条西3丁目9番2号 〒001-0010 TEL(011)708-3177
東北営業所: 仙台市青葉区中央1丁目6番35号 〒980-0021 TEL(022)262-7445
九州営業所: 福岡市博多区冷泉町5番35号 〒812-0039 TEL(092)291-8545
SINKOテクニカルセンター: 神奈川県秦野市菩提160番地の1 〒259-1302 TEL(0463)75-1977
SINKO AIR DESIGN STUDIO: 大阪府寝屋川市宇谷町11番13号 〒572-0856

www.sinko.co.jp